



【すま のりこ さん】朝日町

●民生委員児童委員として地域に住む方が抱えるさまざまな問題について相談を通じての福祉の向上に取り組む。30年以上の活動が認められ、昨年、厚生労働大臣表彰を受けました。

人と人とのつながりで地域の支援ができれば…

## 高

齢者の訪問や見守り、身近な生活問題の相談、出産や育児、子どもの不登校や虐待などさまざまな相談を受ける民生委員児童委員。須磨さんは、この委員の一人として昭和52年から活動しています。

委員になつたきっかけは、昭和47年に子育てのために「言葉を育てる親の会」を設立したことにはじまります。この会の活動を進めていたところ、町内会から民生委員児童委員に推せんされ、社会のためになればと思い引き受けたそうです。

「相談に来る方の話をじっくり聞き、何をしてほしいのか相手の立場に立つて考え、どのような支援が適切かを考えます。法律や制度で解決できる相談

ばかりではありません。行政のすき間を埋めることもひとつの役割と考えています」と活動への思いを話します。

昨年、33年間にわたる活動が認められ、厚生労働大臣表彰を受けました。

「長い間続けてきたという感覚はありません。悩んで夜中に電話をかけてくる方や、小さいときから親との関わりが途絶えがちな施設でがんばって成長している子どももいます。地域の住民の一人として、立ち直ろうとする方に一度関わったら最後まで責任を持って支援したいとの想いで活動してきました。気がつくとも33年間経過していたというのが感想です」といいます。

「相談に来る方が問題を解決しようと努力する姿が私の活力になり、また

私自身の成長にもつながっています」と活動を続ける力の源を話します。

昨年、新たに委員になつた57人の方を含め212人の方が民生委員児童委員として委嘱されました。「新たな委員も継続されている委員も同じ1年生です。長く携わっているからといって驕り（もて）があつてはいけません。心新たに活動したいと思えます」と委員としての心構えを話します。

「人はさまざまな人とかかわりの中で生きていきます。やはり人のつながりが必要です。身近な方への声かけなど近所づきあいが大切です。今の活動を続けて、少しでも地域で支援ができるといいですね」と明るく語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



NORIKO  
SUMA

須磨

紀子

さん